

【別紙様式3】

再評価実施事業調書

番号	10	事業名	市原市公共下水道事業		路線又は箇所名等		松ヶ島排水区他		
事業所管課		下水道計画課			事業主体		市原市		
事業化年度	昭和45年	用地着手年度	昭和44年		工事着手年度	昭和45年	再評価の理由	再評価実施後一定期間を経過したため	
				工事終了年度	平成42年				
費用便益比 B/C	1.9~3.0	総費用	210 億円	総便益	445 億円	基準年	平成20年	供用開始 年 度	昭和47年

【事業概要】

項目	全体計画(目標年次:H27)	事業計画(完成予定年次:H25)	現況(H20)
排水区面積	669ha	312ha	179ha
処理人口	—	—	—
下水処理場の処理能力	—	—	—
事業費	169億円	119億円	97億円

【事業の進捗状況】

指 標	状 況
事業の進捗状況	平成20年度までの整備面積は、事業計画312haに対して179haを整備し、整備率が57%である。
処理場用地の取得状況	—
処理施設の供用状況	—
供用開始区域の接続状況	—
地元情勢等	市原市議会の理解及び地元住民の協力は得られている。

【社会経済情勢等】

指 標	状 況
社会経済情勢	下水道事業に影響のある社会経済情勢の変化は特にはない。
自然環境条件	—
計画変更の有無及びその程度	全体計画及び事業計画について、必要に応じ適切に見直している。

【コスト縮減・代替案】

指 標	状 況
コスト縮減	アスファルト合材・路盤砕石等再生資材の利用や経済的な工法の選択によりコスト縮減に努めている。
代替案	—

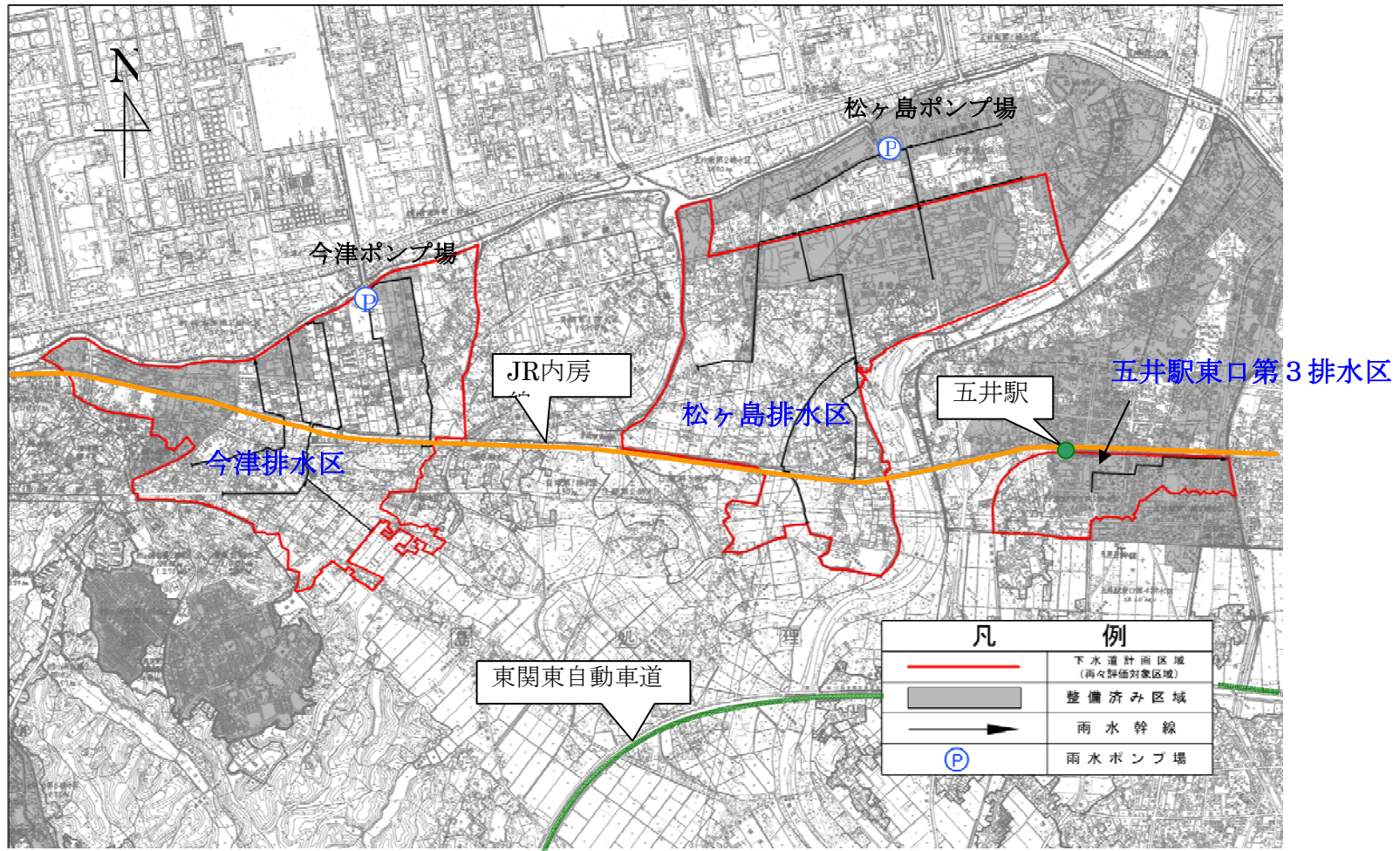
【対応方針(案)】

市原市公共下水道事業(雨水)は、今後も整備が必要とされることから、当事業を継続していく方針です。

【別紙様式 4】

事業概要図

番号	10	事業名	市原市公共下水道事業	路線名又は箇所名	松ヶ島排水区他
----	----	-----	------------	----------	---------



【別紙様式5】

再々評価事業に関する調書

番号	10	事業名	市原市公共下水道事業	路線又は箇所名等	松ヶ島排水区他	
事業化年度	昭和45年	用地着手年度	昭和44年	工事着手年度	昭和45年	
【再評価の概要】						
再評価実施年度 (基準年)	平成10年	供用開始 年度	昭和47年	対応方針	継続	
B/C	—	総費用	—	総便益	—	
再評価時の委員会の意見及び当時の状況 事業の継続が妥当とのご意見をいただいた。						
再評価時の進捗状況						
	計 画		進捗状況			
全体事業費	175億円		58億円			
用地取得面積	0.82ha		0.6ha			
供用面積	669ha		126ha			
【再々評価の概要】						
再評価実施年度 (基準年)	平成20年	供用開始 年度	昭和47年	対応方針	継続	
B/C	1.9~3.0	総費用	210 億円	総便益	445 億円	
現在の進捗状況						
	計 画		進捗状況			
全体事業費	169億円		97億円			
用地取得面積	0.82ha		0.82ha			
供用面積	669ha		179ha			
再評価後の 経過及び 処理状況	再評価時から現在に至るまで、主に幹線管渠及びポンプ場の建設を進めており、事業は進展している。					

【別紙様式3】

再 評 価 実 施 事 業 調 書

番 号	10	事業名	市原都市計画下水道事業		路線又は箇所名等		若宮都市下水路		
事業所管課		下水道計画課			事業主体		市原市		
事業化年度	昭和45年	用地着手年度	昭和51年		工事着手年度	昭和45年	再評価の理由	再評価実施後一定期間を経過したため	
				工事終了年度	平成25年				
費用便益比 B/C	3.1	総費用	71 億円	総便益	221 億円	基準年	平成20年	供用開始 年 度	昭和47年

【事業概要】

項目	全体計画(目標年次:H21)	事業計画(完成予定年次:H21)	現況(H20)
計画・整備延長	3,770m	3,770m	3,429m
処理人口	—	—	—
下水処理場の処理能力	—	—	—
事業費	62億円	62億円	46億円

【事業の進捗状況】

指 標	状 況
事業の進捗状況	平成20年度までの整備延長は、事業計画3,770mに対して3,429mを整備し、整備率が91%である。
処理場用地の取得状況	—
処理施設の供用状況	—
供用開始区域の接続状況	—
地元情勢等	市原市議会の理解及び地元住民の協力は得られている。

【社会経済情勢等】

指 標	状 況
社会経済情勢	下水道事業に影響のある社会経済情勢の変化は特はない。
自然環境条件	—
計画変更の有無及びその程度	全体計画及び事業計画について、必要に応じ適切に見直している。

【コスト縮減・代替案】

指 標	状 況
コスト縮減	アスファルト合材・路盤碎石等再生資材の利用や経済的な工法の選択によりコスト縮減に努めている。
代替案	—

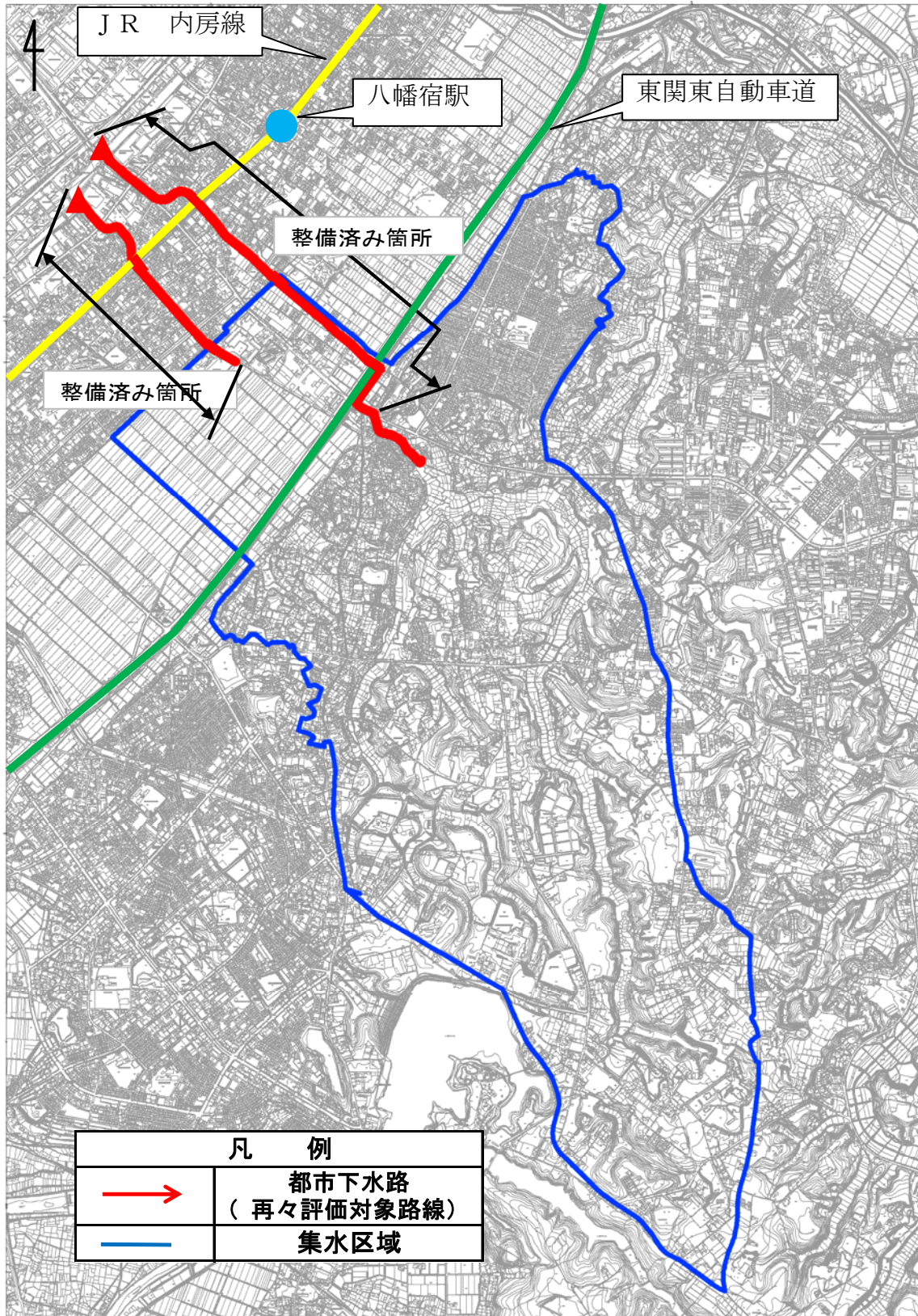
【対応方針(案)】

市原都市計画下水道事業(若宮都市下水路)は、今後も整備が必要とされることから、当事業を継続していく方針です。

【別紙様式 4】

事業概要図

番号	10	事業名	市原都市計画下水道事業	路線名又は箇所名	若宮都市下水道
----	----	-----	-------------	----------	---------



【別紙様式5】

再々評価事業に関する調書

番号	10	事業名	市原都市計画下水道事業	路線又は箇所名等	若宮都市下水路	
事業化年度	昭和45年	用地着手年度	昭和51年	工事着手年度	昭和45年	
【再評価の概要】						
再評価実施年度 (基準年)	平成10年	供用開始 年 度	昭和47年	対応方針	継 続	
B/C	—	総費用	—	総便益	—	
再評価時の委員会の意見及び当時の状況 事業の継続が妥当とのご意見をいただいた。						
再評価時の進捗状況						
	計 画		進捗状況			
全体事業費	71億円		37億円			
用地取得面積	1.85ha		1.71ha			
供用延長	5,510m		2,632m			
【再々評価の概要】						
再評価実施年度 (基準年)	平成20年	供用開始 年 度	昭和47年	対応方針	継 続	
B/C	3.1	総費用	71 億円	総便益	221 億円	
現在の進捗状況						
	計 画		進捗状況			
全体事業費	62億円		46億円			
用地取得面積	1.85ha		1.83ha			
供用延長	3,770m		3,429m			
再評価後の 経過及び 処理状況	再評価時から現在に至るまで、都市下水路の建設を進めており、事業は進展している。					